

誰一人取り残さない公共空間のインクルージョン : 当事者・実務者・研究者の総合知でウェルビーイングを実現

九州大学（羽野 暁）

「誰一人取り残さない」社会の実現が求められている。障害者権利条約で提唱された「障害の社会モデル」は、障害を個人の心身機能の制約ではなく環境の問題と捉えており、障害の除去は社会の責務である。当事者の参加を求めるこの条約の精神に基づき、当事者との共創による公共空間のインクルージョンが重要視されている。九州大学らくちんラボでは、マイノリティ当事者と研究者、実務者が協力し、ウェルビーイングの実現に取り組んでいる。多様なニーズに応えるために、多領域の研究を基に新しい解決策を見出し、実務者との連携によって実現化している。キャンパスをフィールドに実装したプロトタイプは社会実装に展開している。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

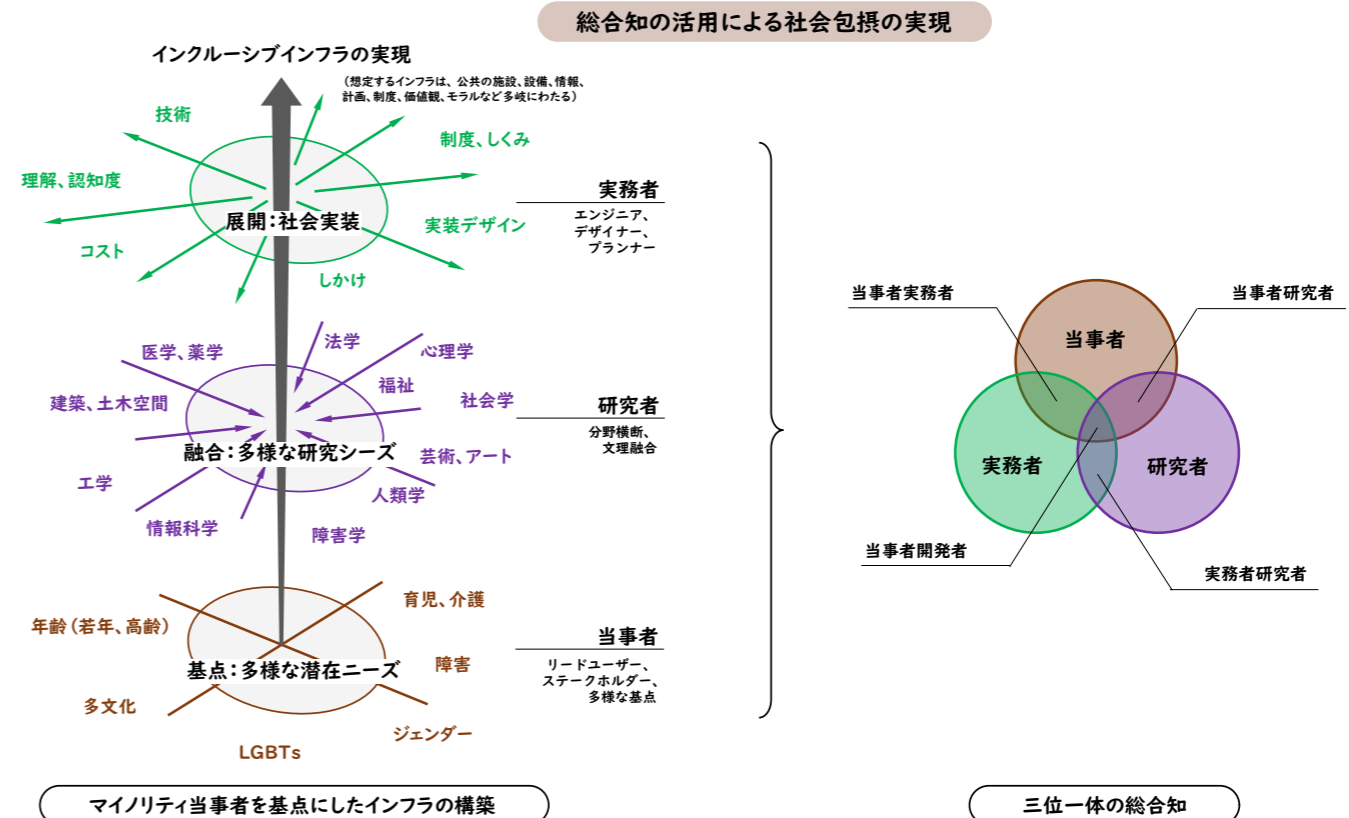
「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、多領域の総合知を活用して個々の多様なニーズに解決策を見出す。キャンパスをフィールドにしたプロトタイプ実装を基点に社会実装し、公共空間のインクルーシブ化によるウェルビーイングの実現を目指す。

参画しているステークホルダー / 「矩」を超えた場づくりの工夫

障害者権利条約の精神に則り、当事者参加による環境改善が必要。工学、芸術工学、情報科学、心理学、発達障害学、心身医学等の多領域の研究者と、技術やデザインを提供する実務者、障害を詳細に把握する当事者が協力し、新しい公共空間を共同で創造する。

生み出された総合知 / 得られた新たな価値

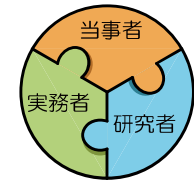
リードユーザーであるマイノリティ当事者との共創による潜在ニーズの理解。研究者と実務者の連携による研究シーズの具現化。および、インクルーシブキャンパスの実現を基点にした社会実装による公共空間のインクルージョンとウェルビーイングの実現。



誰一人取り残さない公共空間のインクルージョン — 当事者・実務者・研究者の総合知でウェルビーイングを実現 —

「誰一人取り残さない」社会の実現が求められている。国連障害者権利条約で示された「障害の社会モデル」は、障害を個人の心身機能の制約ではなく環境に適合しづらい社会状況と捉えており、障壁の除去は公共の責務である。同条約の精神「私たちのことを私たち抜きで決めないで (Nothing about us without us)」に倣い、マイノリティ当事者との共創による公共空間の成熟が求められている。

九州大学らくちんラボは、マイノリティ当事者と多領域の研究者、及び実務者が協同する三位一体の体制を構築し、三者の総合知によるウェルビーイングの実現に取り組んでいる。マイノリティ当事者の多様なニーズに対し、多領域の研究シーズを基に新しい解決策を案出し、実務者との連携により具現化して実装している。社会に先駆けてキャンパスをフィールドに実装したプロトタイプは、社会実装へ展開している。



多様な当事者ニーズ把握

マイノリティの多様な個々のニーズ

- ・肢体不自由 ・視覚 ・聴覚 ・病弱 ・虚弱
- ・精神 ・発達 ・知的 ・LGBTQ+



カタリバ

研究者・実務者とマイノリティ当事者が輪になり、さくばらんに困りごとをうかがう座談会



生活動線同行ヒアリング

研究者・実務者が当事者の日常生活の動線に同行し、困りごとを検出するヒアリング

多領域の研究シーズ+具現化スキル



- | | |
|------|-------------------|
| 羽野 暁 | キャンパスライフ・健康支援センター |
| 樋口明彦 | 工学研究院 |
| 大枝良直 | 工学研究院 |
| 須長正治 | 芸術工学研究院 |
| 鶴飼哲矢 | 芸術工学研究院 |
| 伊原久裕 | 芸術工学研究院 |
| 高田正幸 | 芸術工学研究院 |
| 内田若希 | 人間環境学研究院 |
| 坂井 猛 | キャンパス計画室 |
| 鶴崎直樹 | キャンパス計画室 |
| 高野 茂 | 九州先端科学技術研究所 |
| 田中真理 | 基幹教育院 |
| 横田晋務 | 基幹教育院 |

- | | |
|--------|-------------------|
| オブザーバー | |
| 永野 純 | キャンパスライフ・健康支援センター |

(2023 年度メンバー)

キャンパス実装から社会実装へ

社会に先駆けたインクルーシブな公共空間



色覚の多様性に配慮した案内サイン



通り抜けが可能なドライブスルー型駐車場



視覚障害者が安全に歩行できる木製バリアフリー歩道



視覚障害者と車椅子利用者のコンフリクトを解消する縁石



心のバリアフリーを醸成する障害者アート鑑賞空間

学内実務者

- ・学生支援課
- ・環境安全管理課
- ・施設企画課

学外実務者

- ・設計者
- ・製作メーカー
- ・デザイナー

公開シンポジウムシリーズ

学内外の専門家、市民を巻き込んだオープンイノベーションの場

場域	色	文字	ひとり空間	触知	アート
 6/22 sat	 パリアフリー 7/27 sat	 ものバリアフリー 10/26 sat	 ひどろ 11/30 sat	 触知バリアフリー 1/25 sat	 3/7 sat アートx

社会に先駆けたインクルーシブキャンパスの実装から社会実装へ

1. 色覚の多様性に配慮した案内サイン

- ・2色覚基点の新しい配色手法を適用
- ・サインデザイナーと協同し具現化
- ・マイノリティを基点にしたインクルーシブな案内サインを実現
- ・2020年度日本サインデザイン賞入選



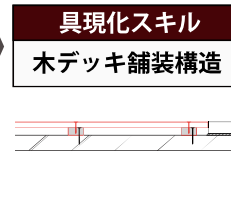
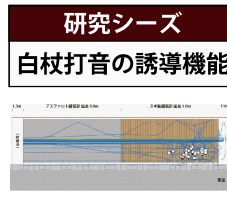
2. 通り抜けが可能なドライブスルー型ユニバーサル駐車場

- ・障害者ドライバーの駐車に困難さに配慮
- ・脊髄損傷者の後方振返りが不要
- ・脊髄損傷者ドライバーの運転負担を半減
- ・高齢者にも優しい駐車場の新構造
- ・社会実装を実現



3. 視覚障害者が安全に歩行できる木製バリアフリー歩道

- ・視覚障害者の車道飛び出しを抑制
- ・音による識別という新発想
- ・環境にも優しい木製の舗装構造
- ・高齢者や子ども、ペットにも優しい
- ・社会実装を実現



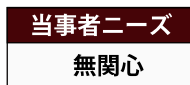
4. 視覚障害者と車椅子利用者のコンフリクトを解消する縁石

- ・障害種間のコンフリクトを解消する形状
- ・足裏感知を重視した新形状
- ・筋力が弱い車椅子利用者にも配慮
- ・協同のプロセスにより障害種間の心のコンフリクトも解消
- ・キャンパスに先んじて社会実装を実現



5. 心のバリアフリーを醸成する障害者アート鑑賞空間

- ・福祉活動団体と連携
- ・パブリックスペースに作品を展示
- ・既存のキャンパス空間に違和感なく挿入
- ・日常的に障害者アートに触れる場を提供
- ・共生社会への気づきを醸成



社会実装

